

2-1 図書館を取り巻く社会的環境の変化

(1) 少子高齢化と人口減少

「超高齢社会」の到来に伴い、公共図書館でも高齢者のニーズへ対応することが求められており、公共図書館という居場所を活かした交流や生きがいつくりの支援が必要となっています。

また、安心して子どもを産み育てられる環境へのニーズが高まる中で、公共図書館では親子連れが利用しやすい施設・設備・サービス等の充実、子育てに関連する情報やサービスの提供、子育て世代の市民のつながりの創出に資する場の提供などが必要となっています。

(2) ICT 化の進展

ICT (Information and Communication Technology) 社会の進展に伴いインターネットやモバイル端末が普及する中で、公共図書館でも ICT の導入が進んでいます。また、平成 22 年は電子書籍元年といわれるなど、資料や情報のデジタル化は今後も進展していくものと考えられ、公共図書館でも紙とデジタル資料とを効率的に組み合わせ、利用者のニーズに応じた資料提供を行うことが必要となっています。

(3) ライフスタイルや価値観の変化

時代の変化に伴い市民のライフスタイル、働き方、家族構成、価値観などが多様化する中で、生活の豊かさやゆとりなどへの要求が高まっています。公共図書館に対する市民ニーズも多様化しており、資料を借りたり情報を調べたりするほか、日常の課題について相談したり、くつろぎの時間を過ごしたり、文化活動を楽しんだりする場としての機能が求められており、市民一人ひとりの多様なニーズに対応していくことが必要となっています。

(4) 地域コミュニティの希薄化

人口減少、核家族化を背景に地域コミュニティや人と人とのつながりが希薄化している中で、公共図書館はその集客性を活かして市民を惹きつけ、出会いの場、交流の場、賑わいの場として機能することが求められています。大規模災害などをきっかけに絆づくりの重要性も再認識されており、公共図書館の所蔵する資料や情報を活用し、同じ分野に興味・関心を持つ市民と市民とを結び付け、新たな知のネットワークを創出することが期待されています。

(5) 経済や文化のグローバル化

社会のグローバル化に伴い国境を越えた人の移動が日常化する中で、世界の中での日本を理解することの重要性が高まっています。また、東京オリンピック・パラリンピックの開催などを機に訪日外国人数もさらに増加することが想定されます。公共図書館でも多文化共生に関する学習機会の提供が求められるほか、外国人の日本語や日本社会に対する理解を支援したり、多文化交流機会を提供したりすることなども必要となっています。

(6) 貧困と格差の出現

長期の経済不振や非正規雇用の拡大などに伴い、一億総中流社会から貧困と格差が問題となる社会への変容が見られる中で、貧困の連鎖や格差の固定化を防ぐという観点から公共図書館はその重要性を増しています。家庭環境等により市民の学習環境の格差が拡大することのないよう、困難を抱えた市民へ資料・情報利用機会を確保することなどが必要となっています。

(7) 地域の記憶の必要性の高まり

東日本大震災などの大規模災害の経験から、被災の記憶やそこから得た教訓を未来へとつなぐという機運が高まっています。また、市民が自らの住む地域について知り、学び、考え、愛着を育むという流れの中でも地域独自の資料や情報は大きな役割を果たしています。公共図書館は、それぞれの地域の過去から現在までの記録と資料を網羅的に収集、保存し、未来へとつなげていくという役割の面でもその重要性を増しています。

(8) 学校図書館との連携要請の強まり


高度情報化社会の進展に伴う意思決定の複雑化を背景に子どもの「生きる力」の育成が必要とされており、小学校における英語教育やプログラミング教育の導入といった新たな取り組みも進む中で、学校図書館もその重要性を増してします。公共図書館と学校図書館とはそれぞれ独自のサービスを展開するのではなく、連携を密にしていくことで、子ども自らの情報収集や意思決定、問題解決に必要な読解力や情報活用能力の向上に資する読書環境の充実を図るとともに、学校図書館から公共図書館へのスムーズな利用の移行を支援する取り組みの充実を図ることが求められています。

2-2 図書館の先進事例


(1) ICT を積極的に活用している事例

安城市図書館 (中心市街地拠点施設アンフォーレ内)			
1 所在地	愛知県安城市御幸本町 12-1	7 奉仕人口	185,818 人
2 開館年月	平成 29 年 6 月	8 貸出冊数	-
3 開館時間	9:00~20:00(土・日・祝 9:00~18:00)	9 来館者数	-
4 休館日	火曜日、第 4 金曜日、年末年始	10 蔵書冊数	706,388 冊
5 延床面積	6,173 m ² (公共施設全体 9,193 m ² 、商業施設全体 3,041 m ²)	11 運営形態	直営
6 併設施設	多目的ホール、市民課窓口、民間商業施設	12 駐車場	273 台 (有料・共有)

特徴

 子どもや親子が遊びの中で ICT に触れる機会の提供


大型のディスプレイを設置し、子どもの動きに反応して画像を変化させることで、子どもが画面の中にいるような体験の出来る環境を提供。体験を通じて ICT に対する子どもの興味・関心を喚起。


 協働での作業やグループ学習を効率化するための環境提供

データを共有してアイデアを練ることの出来るディスカッションテーブルや電子黒板を備えるディスカッションルーム(有料)、3D プリンター等を備えた編集・録音スタジオ(有料)等を提供し、新たな文化・ビジネスの創造を支援。



写真出典) 安城市図書館HP

 24 時間貸出を可能とする予約本受取機の設置

機械式の予約本受取機を館外に設置することで、開館日・時間以外でも自身による貸出処理による資料の受け取りを可能とし、利用者利便性の向上、新たな利用の促進に貢献。



写真出典) 安城市図書館HP

 次世代育成を目的とした ICT 学習機会の提供

市内に工作機械メーカーや産業用ロボットメーカーが集積していることを活かし、企業との連携等を通じて小学 3 年生～6 年生を対象としたプログラミング講座を開催。


講座回数	年間 24 回
開催曜日	日曜日・月曜日・水曜日・木曜日・土曜日(各日 2 回実施、10 コース)
開催時間	平日 1 回目 16:00~17:30 2 回目 18:00~19:30 土日祝日 1 回目 14:00~15:30 2 回目 16:00~17:30

出典)「日本の図書館 2017」、安城市図書館 HP、安城市図書館 Twitter、安城市 HP

(2) 賑わい・交流創出を重視している事例

ひと・まち・情報 創造館 武蔵野プレイス			
1 所在地	東京都武蔵野市境南町 2-3-18	7 奉仕人口	144,902 人
2 開館年月	平成 23 年 7 月	8 貸出冊数	1,156,168 冊
3 開館時間	9:30~22:00	9 来館者数	1,953,759 人
4 休館日	水曜日、12 月 29 日～1 月 4 日	10 蔵書冊数	183,539 冊
5 延床面積	9,809 m ²	11 運営形態	指定管理者
6 併設施設	生涯学習支援機能、市民活動支援機能、青少年活動支援機能	12 駐車場	28 台 (有料・共有)


特徴

 図書館機能と生涯学習・市民活動・青少年活動支援機能の複合化による交流の場の提供


図書館機能を中心に、生涯学習、市民活動や青少年活動を支援する機能が有機的に交わることでさまざまな世代が来館し賑わいを創出。
各フロアの機能と連携して蔵書が分散しており、カフェを含めて館内のどこでも閲覧が可能。



生涯学習支援機能	フォーラム、ワーキングデスク、スタディコーナー
市民活動支援機能	ワークラウンジ、メールボックス、ロッカー、プリント工房
青少年活動支援機能	スタジオラウンジ、クラフトスタジオ、サウンドスタジオ

 青少年活動支援機能

若者の居場所として、地下2階に芸術に関する図書・青少年(満 19 歳以下)向けの図書・雑誌を集めたアート&ティーンズライブラリー及び、青少年のみ利用可能なスタジオやラウンジを設置し、様々な興味関心に応じた活動を支援。


 1 階中心地へのカフェ設置

ゆったりとコーヒーを飲みながらの雑誌閲覧、無線 LAN サービスの利用、来館者同士の談笑、学生の勉強等、来館者の多様な利用形態に対応し、交流の創出にも寄与。夕刻以降は、酒類(ビール、ワイン)・おつまみを提供。



出典)「日本の図書館 2017」、ひと・まち情報創造館武蔵野プレイス HP、武蔵野市 HP

(3) 子育て支援サービスを展開している事例

TRC 八千代中央図書館															
1 所在地	千葉県八千代市村上 2510	7 奉仕人口	195,173 人												
2 開館年月	平成 27 年 7 月	8 貸出冊数	379,179 冊												
3 開館時間	10:00～19:00 (土・日・祝 9:00～18:00)	9 来館者数	321,516 人												
4 休館日	月曜日、月末平日、12 月 28 日～1 月 4 日	10 蔵書冊数	161,198 冊												
5 延床面積	3,016 m ² (複合施設全体:6,268 m ²)	11 運営形態	指定管理者												
6 併設施設	市民ギャラリー	12 駐車場	260 台 (有料・共有)												
特徴															
<p>■ 図書館利用者を対象とした託児サービスの実施 指定管理者による自主事業として、平成 27 年7月から図書館利用者向けに曜日や時間帯を限定した1時間の託児サービス(1日平均15名程度)を実施。子育て世代層の図書館利用や、仕事復帰に向けた勉強等の促進を図る。</p> <table border="1"> <tbody> <tr> <td>1 曜日</td> <td>毎週火・水・土</td> <td>4 料金</td> <td>無料</td> </tr> <tr> <td>2 時間帯</td> <td>10:00～13:30</td> <td>5 利用対象</td> <td>利用登録者</td> </tr> <tr> <td>3 事前予約</td> <td>不要</td> <td>6 対象年齢</td> <td>6か月～未就学児</td> </tr> </tbody> </table> <p>■ 子育て世帯の交流を目的とした子育て広場の実施 保育士による手作り遊具や手遊び・読み聞かせ等の提供を含めた、1ヶ月に1回1時間程度の地域の子育て世帯同士の交流の場を提供。</p> <p>■ 図書館でのイベント時無料の託児サービス 図書館でのイベント時に託児を実施することで、これまでイベントに参加しにくかった子育て世代の市民の参加促進に寄与。</p>				1 曜日	毎週火・水・土	4 料金	無料	2 時間帯	10:00～13:30	5 利用対象	利用登録者	3 事前予約	不要	6 対象年齢	6か月～未就学児
1 曜日	毎週火・水・土	4 料金	無料												
2 時間帯	10:00～13:30	5 利用対象	利用登録者												
3 事前予約	不要	6 対象年齢	6か月～未就学児												
    															

出典)「日本の図書館 2017」、TRC 八千代市立中央図書館・オーエンス八千代市民ギャラリーHP
八千代市 HP、運営受託者実績報告

(4) 他機能と連携して特徴的サービスを展開している事例

大和市立図書館 (大和市文化創造拠点シリウス)											
1 所在地	神奈川県大和市大和南 1-8-1	7 奉仕人口	234,627 人								
2 開館年月	平成 28 年 11 月	8 貸出冊数	1,086,949 冊								
3 開館時間	9:00～21:00 (日・祝 9:00～20:00)	9 来館者数	-								
4 休館日	12 月 31 日、1 月 1 日	10 蔵書冊数	513,190 冊								
5 延床面積	6,560 m ² (複合施設全体:22,904 m ²)	11 運営形態	指定管理者								
6 併設施設	芸術文化ホール、生涯学習センター、屋内こども広場	12 駐車場	55 台 (有料・共有)								
特徴											
<p>■ 「健康図書館」としての取り組み 「健康創造都市やまと」の実現に向け、市内関連部署等と連携し、「健康図書館」をコンセプトに様々な事業を展開するとともに、健康情報サービスを提供。健康関連の書籍1万冊と測定機器を備えた健康相談も可能なフロアを設置。</p> <table border="1"> <tbody> <tr> <td>健康コーナー</td> <td>医学書をはじめとする健康を多角的に捉えた資料の提供</td> </tr> <tr> <td>健康度見える化コーナー</td> <td>近隣7市町村との連携事業として、体組成計や血圧計等の設置 健康相談の受付、「健康度見える化手帳」の配布等</td> </tr> <tr> <td>健康テラスイベント</td> <td>健康に関する講座や地域交流の場として毎日開催 市の健康づくり推進課や、高齢者福祉課による健康講座も実施 市が実施する「ヤマトン健康ポイント」の対象講座あり</td> </tr> <tr> <td>健康遊具</td> <td>屋外の読書テラスに健康遊具を設置</td> </tr> </tbody> </table> <p>■ 大和こどもの国 乳幼児から児童向けの本を揃えた「こども図書館」、2歳までの幼児と保護者を対象とした「ちびっこ広場」、3歳から小学2年生までの児童とその保護者を対象とした「げんきっこ広場」、1歳から小学校就学前までの子どもを預かる「保育室」、子どもの育児や悩みを相談する「育児相談室」等から構成。本との出会いだけでなく、親子の交流の場や子ども同士、親同士の交流の場を提供。</p> <p>■ 機能間連携によるにぎわいづくり 複合施設全体を図書館ととらえ、図書館フロア以外にも図書を配置、複合施設内に併設のカフェ等でも貸出手続きせずに閲覧が可能。利用は中学・高校生に加え、夜間は社会人が目立ち、相鉄線や小田急沿線の市外在住者の利用も多い。複合施設として1日8000人～1万人が訪れ、開館から1年で来館者数が累計300万人を超えた。</p>				健康コーナー	医学書をはじめとする健康を多角的に捉えた資料の提供	健康度見える化コーナー	近隣7市町村との連携事業として、体組成計や血圧計等の設置 健康相談の受付、「健康度見える化手帳」の配布等	健康テラスイベント	健康に関する講座や地域交流の場として毎日開催 市の健康づくり推進課や、高齢者福祉課による健康講座も実施 市が実施する「ヤマトン健康ポイント」の対象講座あり	健康遊具	屋外の読書テラスに健康遊具を設置
健康コーナー	医学書をはじめとする健康を多角的に捉えた資料の提供										
健康度見える化コーナー	近隣7市町村との連携事業として、体組成計や血圧計等の設置 健康相談の受付、「健康度見える化手帳」の配布等										
健康テラスイベント	健康に関する講座や地域交流の場として毎日開催 市の健康づくり推進課や、高齢者福祉課による健康講座も実施 市が実施する「ヤマトン健康ポイント」の対象講座あり										
健康遊具	屋外の読書テラスに健康遊具を設置										
 											

出典)「日本の図書館 2017」、大和市文化創造拠点シリウス HP、大和市 HP

東根市図書館（東根市公益文化施設まなびあテラス内）			
1 所在地	山形県東根市中央南 1-7-3	7 奉仕人口	47,841 人
2 開館年月	平成 28 年 11 月	8 貸出冊数	151,934 冊
3 開館時間	月～土:9:00～20:00(日・祝 9:00～19:00)	9 来館者数	147,937 人
4 休館日	第 2・第 4 月曜日(ただし月曜が祝日の場合は開館し、翌平日休館)、年末年始(12 月 29 日～1 月 3 日)、特別整理日(図書館のみ)	10 蔵書冊数	121,712 冊
5 延床面積	1,886 m ² (複合施設全体 4,401 m ²)	11 運営形態	指定管理者
6 併設施設	美術館、市民ギャラリー、市民活動センター、都市公園、カフェ、ショップ	12 駐車場	約 150 台 (無料・専用)

特徴

■ PFI手法による「集い、学び、創造する 情報と芸術文化の交流拠点」を基本理念とする複合施設の整備・運営

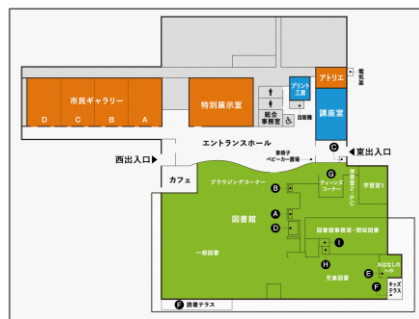
複合文化施設と都市公園を一体的にPFI方式で整備する「東根市公益文化施設整備等事業」より整備。維持管理運営期間は 20 年間。

市民や地域を支える情報拠点としての図書館、市民利用のギャラリーを基本とした芸術文化の活動拠点としての美術館(市民ギャラリー)、活力ある団体活動の情報拠点としての市民活動支援センターから構成。

『集い、学び、創造する 情報と芸術文化の交流拠点』を基本理念に、各機能が独立しながらもそれぞれが互いに融合し相乗効果を発揮する事で、市民が気軽に訪れ、楽しみながら知的好奇心が刺激される場を創出。

■ 一括運営による施設間連携

図書館、美術館、市民活動支援センターの一体的運営により、指揮命令系統の一元化やスタッフの施設間の流動的な配置、美術館イベントに合わせた資料展示等の施設間事業連携、一社運営による弾力的且つ効率的な運営等、複合施設としての相乗効果を発揮。



画像出典) 東根市公益文化施設まなびあテラスHP



出典) 「日本の図書館 2017」、東根市公益文化施設まなびあテラスHP

玉野市立図書館（天満屋ハピータウン・メルカ内）			
1 所在地	岡山県玉野市宇野 1-38-1	7 奉仕人口	61,975 人
2 開館年月	平成 29 年 4 月	8 貸出冊数	190,576 冊
3 開館時間	9:00～21:00	9 来館者数	46,817 人
4 休館日	月曜日、年末年始、特別整理期間	10 蔵書冊数	182,615 冊
5 延床面積	2,260 m ² (商業施設全体 29,585 m ²)	11 運営形態	指定管理者
6 併設施設	公民館、ミュージアム、ギャラリー 専門店、スーパーマーケット、カフェ等	12 駐車場	400 台 (無料・共有)

特徴

■ 公民館との融合による利用促進・相乗効果創出

中心市街地における市民サービスの向上と賑わいの創出を図るとともに、図書館と公民館との連携を核とした学びと課題解決活動による生涯学習社会の充実のため、図書館と中央公民館を中心市街地の既存商業施設(ショッピングモールメルカ)内に立地。

図書館の開架スペースに研修室等の公民館の諸室を点在させ、ガラス越しに互いの利用・活動状況が見える仕組みとすることで、複合施設としての一体感を創出し、双方の施設の利用を促進。

図書館、公民館、ミュージアム、ギャラリーを指定管理者1社が一体的に管理運営し、総合カウンターでの一括対応や各種連携事業の開催等、各機能を融合したサービスを展開することで、さらに利用者利便性を向上。

■ 商業施設内での立地を活かした賑わいの創出

100 円ショップや衣料品店等の立地する専門店と同一フロアに立地。商業施設のホームページでの図書館や公民館のイベント情報の発信、1 階のイベントスペースを活用した事業の実施等、立地を活かした連携事業の展開により、双方の利用者層の拡大に貢献。商業施設内のテナントの営業時間(最大 22 時)等を考慮し、図書館・公民館ともに 21 時まで開館し、商業施設利用者の立ち寄り利用を促進。



画像出典) 玉野市HP



写真出典) 玉野市立図書館・中央公民館 Facebook

出典) 「日本の図書館 2017」玉野市立図書館・中央公民館 HP、玉野市 HP

(5) 市民協働を重視している事例

徳島市立図書館（アミコビル内）			
1 所在地	徳島県徳島市元町 1-24	7 奉仕人口	256,451 人
2 開館年月	平成 24 年 4 月	8 貸出冊数	1,056,240 冊
3 開館時間	9:00～21:00	9 来館者数	561,331 人
4 休館日	第1火曜日、1月1日、長期図書整理期間	10 蔵書冊数	479,692 冊
5 延床面積	3,440 m ² (商業施設全体 87,654 m ²)	11 運営形態	指定管理者
6 併設施設	シビックセンター、百貨店、ホテル等	12 駐車場	-

特徴

民間施設と連携したサービス展開・相互利用促進

駅前の商業施設内に立地する利点を活かし、併設する百貨店やホテルと連携した事業を展開。図書館貸出カード保持者はレストランのランチバイキングの100円割引が受けられる他、ホテル宿泊客は団体貸出による図書館資料の利用が可能。連携したサービス展開により、施設全体としてのサービスを向上するとともに各施設間の相互利用を促進。



写真出典) 徳島市立図書館 HP

地元サッカーチームとの連携

地域に根ざした主要団体としての地元Jリーグチームの徳島ヴォルティスと連携し、常設の特設コーナーの設置、選手によるおはなし会とサイン会の実施等、地域連携とともに子どもたちの成長支援への積極的な取り組みを実施。



写真出典) 徳島市立図書館 HP

徳島大学図書館との連携協力事業の実施

徳島大学附属図書館と徳島市立図書館が、図書館による地域貢献を果たすとともに、利用者の利便性や図書館サービスを向上させ、図書館の利用を促進し価値を高めることを目的として、それぞれの特性を活かした幅広い連携協力を推進。連携協力の一環として、市立図書館職員と大学図書館職員との合同研修の実施、徳島市立図書館 6 階一般室にテーマに沿った企画展示等を実施する徳島大学コーナーの設置、大学の教授を招いた健康講座の実施等を通じてサービス向上に寄与。



写真出典) 徳島市立図書館 HP

出典) 「日本の図書館 2017」、徳島市立図書館 HP

鯖江市図書館（鯖江市文化の館内）			
1 所在地	福井県鯖江市水落町 2-25-28	7 奉仕人口	69,104 人
2 開館年月	平成 9 年 12 月	8 貸出冊数	380,208 冊
3 開館時間	10:00～18:00(金曜日 10:00～20:00、金曜日が祝日の場合 10:00～18:00)	9 来館者数	283,431 人
4 休館日	第 4 木曜日、12 月 29 日～1 月 3 日	10 蔵書冊数	335,603 冊
5 延床面積	6,656 m ²	11 運営形態	直営
6 併設施設	視聴覚ライブラリー、映像情報館	12 駐車場	200 台 (無料・共有)

特徴

様々な活動団体との協働企画実施

「さばえ図書館友の会」や「さばえっこ図書館ボランティアネットワーク」、「こどものつどい協力者グループ」など、市民ボランティア団体と協働して様々な事業を企画し実行。

市民と図書館をつなぐ架け橋になることを目的に掲げ、昭和 63 年 4 月に設立された「さばえ図書館友の会」では、運営費を年額 1,500 円の会費で賄いながら、毎月 1 回「友の会たより」を発行し、図書館での催し物などを案内するとともに、図書館と協働してライブラリーカフェやライブラリーカフェコンサートを企画。



写真出典) さばえ図書館友の会 HP

さばえライブラリーカフェの開催

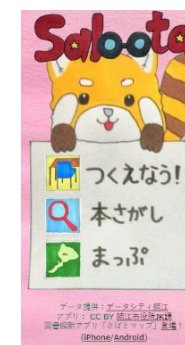
図書館、さばえ図書館友の会、関連団体で平成 17 年度から計画・実施。「新書のような手軽さ」をモットーに、医学や経済、地場産業など多様なテーマを扱い、毎回 50 人ほどが参加。平成 30 年 4 月 17 日時点で通算 156 回実施。毎回の講演録と参加者の感想を友の会の会報等に掲載。



写真出典) 鯖江市文化の館 Facebook

女子高生のアイデアから生まれた図書館アプリ

「鯖江市役所 JK 課」が女子高生のアイデアを取り入れ、鯖江市図書館の個人用機の空席状況の確認、本の検索、図書館の本の返却可能施設の地図上の表示といった機能を備える図書館アプリ「Sabota」を作成し公開。



写真出典) 鯖江市 HP

出典) 「日本の図書館 2017」、鯖江市図書館 HP、鯖江市 HP